工業会活動

令和4年度航空機生産額は前年度比2,533億円の増額

経済産業省が5月17日に公表した生産動態統計月報に基づき、令和4年度の航空機生産額（速報値）を集計した。その結果、総額は前年度比2,533億円（21.9%）増の1兆4,087億円となった。平成25年度から急増した生産額は、令和元年度に1兆8,689億円となった後、令和2～3年度は大きく下落したが、令和4年度は増勢に転じたことが確認された。防需と民需の内訳は、防衛向けが前年度比464億円減の4,511億円、民間向けが2,997億円増の9,576億円となっている。

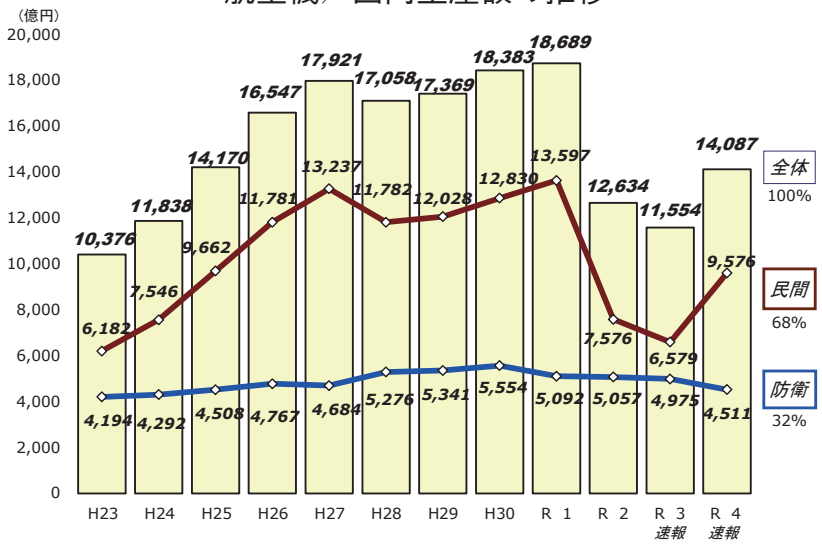
品目別にみると、機体の生産額は、機体本体が524億円減の1,720億円、機体部品がボーイング向け機体の生産回復等により昨年度実績を700億円上回る4,386億円となったため、機体全体では前年度より176億円（0.3%）増の6,106億円となった。エンジンの生産額は、エンジン本体が342億円増の850億円、エンジン部品が海外向け部品の増等により昨年度実績を2,008億円上回る6,049億円となり、エンジン全体では前年度より2,350億円（51.7%）増の6,899億円となった。また、その他機器（付属品・通信機器等）の生産額は、防衛向けは減、民間向けは増となったが、その他の機器全体では前年度とほぼ同じレベルの1,082億円となった。

また、全体額の防需と民需の比率は32%対68%と民需の割合が前年度より大きく増加した。平成24年度以降、民間航空機でボーイング社等からの受注増大に伴い民需比率が増大（民需比率のピークは平成27年度の74%）した後、令和2年度以降は新型コロナウイルスの影響等による航空機需要減少に伴い民需比率が大きく減少したが、航空機需要の回復により再び増大する結果となった。

上記のように令和4年度の我が国の航空機生産は、令和2～3年度の減少傾向に歯止めがかかり増大傾向に転じた。今後については、防衛向けでは昨年12月公表の防衛力整備計画で示された固定翼機や回転翼機等の調達に伴う安定的生産と次期戦闘機の開発推進が期待される。民間向けでは、エンジン関連は単胴機を中心とした需要回復により部品生産が回復基調にある。一方、機体関連では、ボーイング777は航空機需要が回復しつつあるものの低生産レートを継続中で、ボーイング777Xは在庫の調整等のために初号機納入を令和7年に延期する旨が公表され、また、ボーイング787については昨年8月に品質問題

が解決し納入が再開されたものの、サプライチェーン回復の動向を注視しながら緩やかな増産が進められている。こうした状況を踏まえると、令和5年度以降の航空機生産の動向は復調基調にあるものの、引き続き楽観できないものと想定される。

航空機／国内生産額の推移



令和3年度と令和4年度の区分別比較

（億円）

区分			R03年度 速報値			R04年度 速報値			差 (R04 - R03)		
			防衛向け	民間向け	計	防衛向け	民間向け	計	防衛向け	民間向け	計
製造	機体	本体	1,416	23	1,439	×	×	906	×	×	△534
		部品	901	2,220	3,120	1,009	2,809	3,818	108	590	698
		小計	2,317	2,243	4,560	×	×	4,724	×	×	164
	エンジン	本体	0	4	4	×	×	105	×	×	101
		部品	429	3,557	3,986	429	5,569	5,997	△1	2,012	2,011
		小計	429	3,561	3,990	×	×	6,102	×	×	2,112
	その他機器		712	195	907	626	275	901	△86	80	△6
	計		3,458	5,999	9,457	2,680	8,736	11,416	△778	2,738	1,960
修理	機体	本体	660	145	805	666	148	814	6	3	9
		部品	456	109	565	460	107	567	4	△2	2
		小計	1,116	254	1,370	1,127	255	1,382	11	1	11
	エンジン	本体	212	292	504	197	549	745	△15	257	241
		部品	43	12	55	40	12	52	△3	0	△3
		小計	255	304	559	236	561	797	△19	257	238
	その他機器		146	22	168	157	24	181	11	2	13
	計		1,517	580	2,097	1,520	840	2,359	3	259	263
全体	機体	本体	2,076	168	2,244	×	×	1,720	×	×	△524
		部品	1,357	2,329	3,686	1,470	2,916	4,386	113	588	700
		小計 （防民比率）	3,433 (58%)	2,497 (42%)	5,930 (100%)	× (－)	× (－)	6,106 (－)	×	×	176
	エンジン	本体	212	296	508	×	×	850	×	×	342
		部品	472	3,569	4,041	468	5,581	6,049	△4	2,012	2,008
		小計 （防民比率）	684 (15%)	3,865 (85%)	4,549 (100%)	× (－)	× (－)	6,899 (－)	×	×	2,350
	その他機器	（防民比率）	858 (80%)	217 (20%)	1,075 (100%)	783 (72%)	299 (28%)	1,082 (100%)	△75	82	7
	計	（防民比率）	4,975 (43%)	6,579 (57%)	11,554 (100%)	4,511 (32%)	9,576 (68%)	14,087 (100%)	△464	2,997	2,533

（注）四捨五入の関係から、合計は必ずしも一致しない
×：経産省 生産動態統計の令和2年1月以降の一部データは内訳数値が公表されていない

（出典：経済産業省 生産動態統計）

［（一社）日本航空宇宙工業会　業務部長　杉原　康二］